

授業科目名	とやま地域学	科目コード	K1711P11
英文名	Toyama Regional Studies		

科目区分	富山の子ども育成
------	----------

職名	教授	担当教員名	助重 雄久
学部	子ども育成学部	学科	子ども育成学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	1年・2年・3年・4年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>2015年の北陸新幹線開業以来、富山県は多くのメディアに取り上げられ、国内外から注目されています。一方、少子高齢化が一段と進んで地域活力の低下が懸念されており、2018年から県の新総合計画による対策がスタートしました。皆さんにも新時代に対応したライフスタイルの確立が求められています。今年度の「とやま地域学」は、「デジタル社会のなかの富山」「富山の自然を活かす」「富山のものづくり、地域づくり」「富山の歴史を振り返る」の4つのテーマを設定し、それぞれの視点から富山の魅力を発見するとともに、活力ある富山の地域づくりについて考えます。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	デジタル社会	富山の自然	富山の産業・生活	富山の地域づくり	富山の歴史
-------	--------	-------	----------	----------	-------

到達目標	目標1：富山の歴史文化や産業・生活などの現状を学び、その特色を理解することができる。
	目標2：富山、とくに立山黒部の自然について学び、それらと生活や産業との関係を理解することができる。
	目標3：各分野の専門家の講義やフィールドワークを通して、富山の今後の地域づくりについて考えることができる。

**卒業要件・資格関連等**

卒業要件	幼稚園教諭	保育士	小学校教諭	社会福祉士	スクール ソーシャルワーカー

ディプロマポリシー	「人」としての資質・能力（人間性の向上）
カリキュラムポリシー	子ども育成の教養

**キー・コンピテンシー（重視する能力）**

コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

**教授方法（授業方法）**

知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	授業ガイダンス・日程等に関する説明 富山国際大学現代社会学部教授 助重 雄久	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	知事と語ろう 富山の未来 富山県知事 新田 八朗(予定)	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	AI、デジタル化社会から見る富山 富山国際大学現代社会学部教授 新森 昭宏	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	ビッグデータから見る富山の生活と産業 富山国際大学現代社会学部准教授 大谷 友男	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	富山の生活と豊かな水 富山国際大学名誉教授 尾畑 納子 氏	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	立山黒部の自然とその多様性 講師未定(交渉中)	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	立山黒部の観光とその未来 講師未定(交渉中)	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	日本酒づくりとその未来 講師未定(交渉中)	
	【予習】	
	【復習】	

第9回	次世代エネルギーとしてのゼンマイの可能性 東洋ゼンマイ(株)代表取締役社長 長谷川 光一 氏	
	【予習】	
	【復習】	
第10回	朝日町の良さを活かした移住・定住促進 朝日町住民・子ども課移住定住相談員 善田 洋一郎 氏	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	町家のリノベーションと地域活性化 グリーンノートレーベル(株)代表取締役 明石 博之 氏	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	富山市街地の歴史をたどる（レクチャー） 富山市郷土博物館館長 坂森 幹浩 氏	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	富山市街地の歴史をたどる（バーチャルフィールドワーク） 富山市郷土博物館館長 坂森 幹浩 氏	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	富山市街地の歴史をたどる（グループ発表） 富山市郷土博物館館長 坂森 幹浩 氏	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	まとめ、課題提出について 富山国際大学現代社会学部教授 助重 雄久	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	受講状況や積極性(20%)、毎時限の課題(80%)をもって総合的に評価する。試験は実施しない。各大学の評価基準が異なるため、100点満点で採点し、実点を各大学に通知する。		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて、プリントを配布する。	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	オムニバス形式で毎時限講師が異なるため、各講師の授業の最後に質問時間を設ける。その他、休憩時間などを利用して質問などに応じる。ただし、授業を対話形式で行い、授業中に質疑応答の時間を設ける場合もある。		
オフィス・アワー			